

平成29年度日本植物病理学会関西部会プログラム

日 程 平成29年9月19日（火）、20日（水）

会 場 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1 (<http://www.osakafu-u.ac.jp/>)

受 付 B3 棟 1 階 南エントランス

事務局 B3 棟 1 階 107 小講義室

第1日（9月19日）

11:30～	受付開始	B3 棟 1 階 南エントランス
13:30～14:30	総会 シンポジウム 部会長 柘植 尚志 氏 テーマ：宿主特異的毒素獲得による <i>Alternaria alternata</i> の病原菌化は適応進化か？	B1 棟 2 階東大教室 B1 棟 2 階東大教室
14:50～18:02	一般講演	
第1会場（B3 棟 117 大講義室）	第2会場（B3 棟 118 大講義室）	第3会場（B3 棟 116 中講義室）
101～116 感染生理，病原性・抵抗性 （菌類病，細菌病，植物保護）	201～216 病原体の性状，感染生理， 病原性・抵抗性 （細菌病，菌類病，ウイルス病）	301～316 分類・同定，検出・診断，発生生態， 防除薬剤・薬剤耐性，生物防除・ 防除法 （菌類病，細菌病，ウイルス・ ウイロイド病，植物保護）
18:30～20:30	情報交換会（C1 棟 学術交流会館 1 階 多目的ホール）	

第2日（9月20日）

9:30～11:54	一般講演	
第1会場（B3 棟 117 大講義室）	第2会場（B3 棟 118 大講義室）	第3会場（B3 棟 116 中講義室）
117～128 感染生理，病原性・抵抗性， 生物防除・防除法 （菌類病，細菌病）	217～227 感染生理，病原性・抵抗性， 防除薬剤・薬剤耐性， 生物防除・防除法 （菌類病，細菌病，植物保護）	317～328 分類・同定，検出・診断，防除薬剤・ 薬剤耐性，生物防除・防除法， その他 （菌類病，細菌病，植物保護）

お願い

部会参加の皆様へ

- ・ 受付は、B3 棟 1 階南エントランス（東側）です。講演要旨集、名札/領収書、および、名札ケースの受け渡しをこちらでさせていただきます。当日参加の受付もこちらで行います。
- ・ 名札と領収書の払い込み金額をご確認下さい。別途領収書の必要な方は当日受付でお申し出下さい。
- ・ 名札は会場内では常時身につけて下さい。名札ケースは関西部会で再利用しておりますので、部会終了時に各会場の出入り口にてご返却下さい。
- ・ 休憩室として、B3 棟 1 階の 108 小講義室および中庭をご利用下さい。
- ・ 携帯電話など音が出る電子機器は、講演会場内では電源をお切りいただくかマナーモードの設定をお願い致します。
- ・ 施設内は全館禁煙です。建物外に喫煙場所がございますのでご利用下さい。
- ・ 昼食は、大学生協のレストランがご利用できます。また、大学近辺には飲食店およびコンビニエンスストアが多数あります。
- ・ 不明な点や要望などがありましたら、部会スタッフに遠慮なくお申し出下さい。

口頭発表の皆様へ

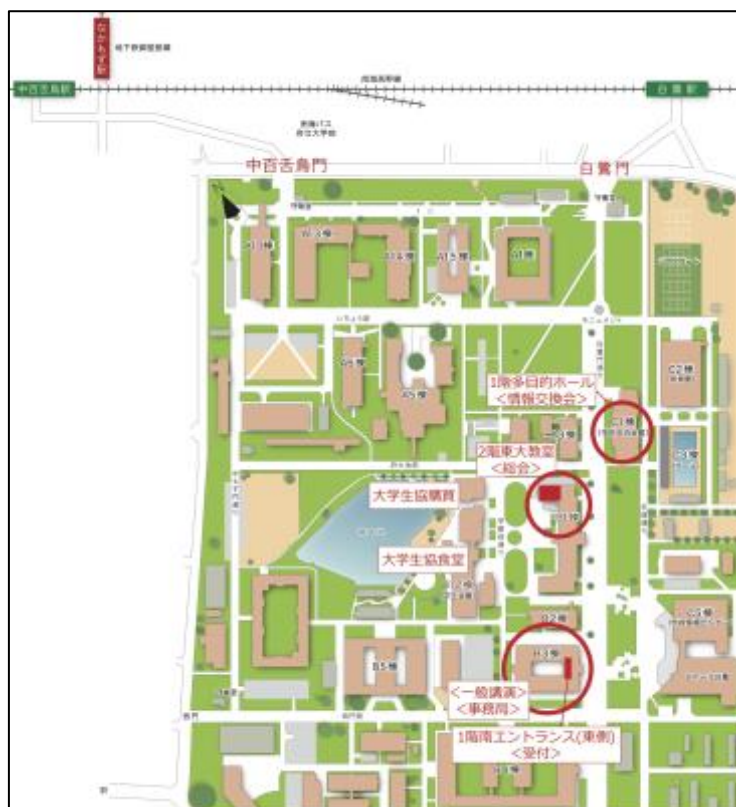
- ・ 発表時間 10 分（予鈴 8 分）、討論時間 2 分の計 12 分です。演題数が多いため、時間厳守をお願いします。
- ・ スライド映写は OS Windows 7, PowerPoint 2013 にて行います。発表用ファイルは PowerPoint 2007 以降のファイル形式（拡張子が pptx） で保存し、Windows 版 PowerPoint 2013、スライドサイズは標準の 4:3 で正常に表示されることを確認のうえ持参して下さい。PowerPoint 2013 等で作成されたファイル（拡張子が ppt）の拡張子だけを書き換えないで下さい。
- ・ スライド作成に際しては、特殊なフォントや機種依存文字は使わないで下さい。また、後部座席からでも判読できるように、小さい文字や細かい図表の使用は避けて下さい。
- ・ 発表スライドのファイル名は「発表番号-発表者氏名.pptx」（例、101-東條元昭.pptx）としてください。発表番号は半角文字、括弧「」は不要です。
- ・ 発表スライドのファイルは、必ずウイルスチェックをお済ませの上、USB メモリに保存して持参し、**1 日目の発表者は 9 月 19 日（火）14:00 まで、2 日目の発表者は 9 月 19 日（火）17:30 までに各会場の受付に提出**をお願いします。また、提出時にご自身で動作確認をお願いします。USB メモリはその場で返却しますが、念のため発表終了までは身につけておいて下さい。
- ・ 各発表の PowerPoint スライドショーの開始・終了は会場係が行いますが、発表中のスライド送り等は、PC のキーボードの操作により発表者ご自身に行っていただきます。なお、サイズが重いファイルはパソコン動作に不具合をきたすことがありますので、なるべく軽いファイルをご準備ください。
- ・ 講演要旨の訂正箇所が多い場合（訂正が 2 カ所以上）は、朱書きで訂正した要旨のプリントアウトを座長に提出して校閲を受けるとともに、最終的な訂正原稿のファイルを 10 月 6 日（金）までに、メールに添付して本年度の関西部会開催地事務局のアドレス（h29bukai@plant.osakafu-u.ac.jp）宛まで送付し、必ず受領連絡をお受け下さい。

座長の皆様へ

- ・ 部会前に講演要旨を読み、必要があれば事前のメールや部会当日の発表者との直接打合せ等で、要旨の訂正をお願いして下さい。
- ・ 発表者から要旨の訂正依頼があった場合は、座長用の講演要旨集に赤字で直接記入するか、該当ページに訂正原稿を挟み込んで下さい。講演要旨の訂正箇所が多い場合は、訂正要旨のプリントアウトを校閲し、発表者に対して訂正原稿のファイルを 10 月 6 日（金）までに本年度の関西西部会開催地事務局のアドレス（h29bukai@plant.osakafu-u.ac.jp）宛に送付するようご指示下さい。
- ・ 発表 10 分（予鈴 8 分）、討論 2 分の計 12 分の時間厳守で進行をお願い致します。

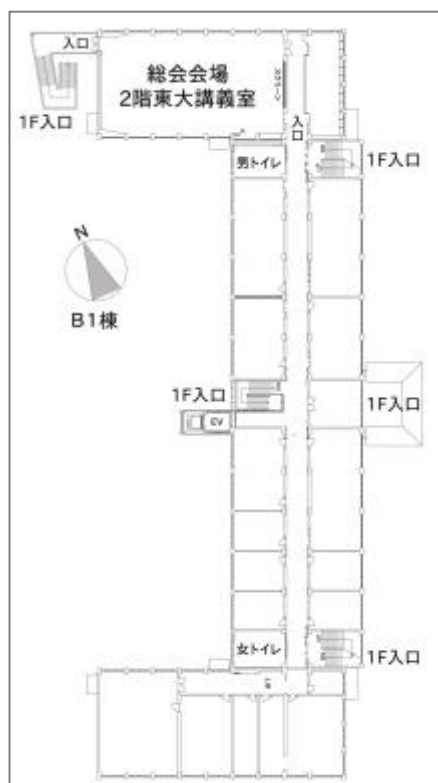
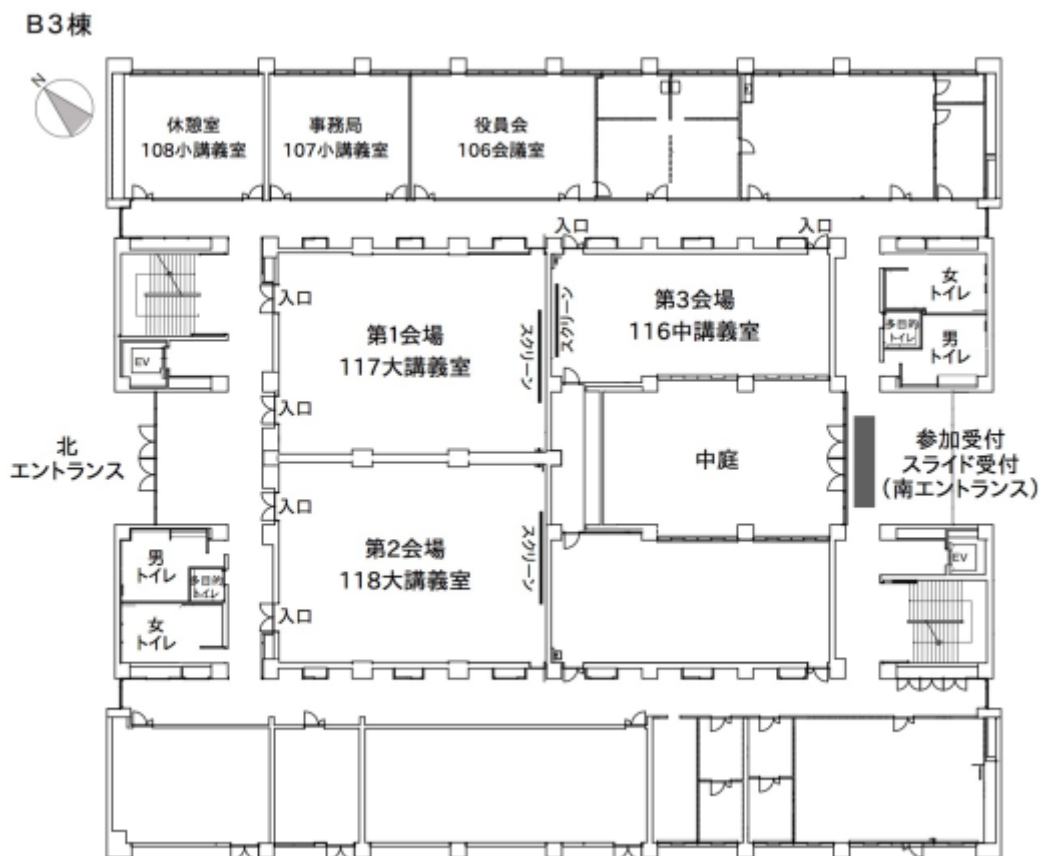
会場までのアクセス（※車でのご来場はお控えください）

- ・地下鉄御堂筋線「なかもず駅（5号出口）」および南海高野線「中百舌鳥駅」から南東へ約1 km、中百舌鳥門まで徒歩約13分、B3棟までは約23分
- ・南海高野線「白鷺駅」から南西へ約500 m、白鷺門まで徒歩約6分、B3棟までは約15分



<会場案内> 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス B3 棟および B1 棟

* 情報交換会への移動はスタッフの案内にしたがってお願いします。



総会会場：B1 棟 2 階 東大講義室

受付時に総会資料をお渡しします。ご足労をおかけしますが、B3 棟で受付後に総会会場までご移動ください。なお、総会終了後 14:50 から始まる一般講演は B3 棟にて行います。

第1日目

第1日目 9月19日(火)		第1会場
		座長 山口 公志 (近大院農) 101-104
14:50	101	希少糖の植物への作用(46):D-Alloseを基質とするOsHXK5の酵素学的諸性質 ○松平一志 ¹ ・加野彰人 ¹ ・馬越史奈 ¹ ・井上 恵 ¹ ・遠矢将大 ¹ ・福元健志 ¹ ・望月 進 ¹ ・吉原明秀 ¹ ・何森 健 ¹ ・大谷耕平 ² ・小原敏明 ³ ・石田 豊 ⁴ ・神島成弘 ⁵ ・吉田裕美 ⁵ ・市村和也 ¹ ・五味剣二 ¹ ・秋光和也 ¹ (¹ 香川大農 ² 松谷化学工業 ³ 三井化学アグロ ⁴ 四国総合研 ⁵ 香川大医)
15:02	102	希少糖の植物への作用(47): <i>Itea</i> 属植物(ズイナ)において希少糖D-alloseをリン酸化するhexokinaseの諸性質の解析 ○辻 則夫・望月 進・大谷耕平・松平一志・島上卓也・吉原明秀・何森 健・市村和也・五味剣二・秋光和也(香川大農)
15:14	103	希少糖の植物への作用(48):OsG6PDH1複合体構成タンパク質について ○大谷夏生 ¹ ・安喜絢花 ¹ ・松平一志 ¹ ・加野彰人 ¹ ・望月 進 ¹ ・大谷耕平 ² ・福元健志 ¹ ・吉原明秀 ¹ ・何森 健 ¹ ・小原敏明 ³ ・石田 豊 ⁴ ・市村和也 ¹ ・五味剣二 ¹ ・秋光和也 ¹ (¹ 香川大学 ² 松谷化学工業 ³ 三井化学アグロ ⁴ 四国総合研)
15:26	104	低分子化合物および未利用資源による植物保護剤の開発研究 ○鳴坂義弘 ¹ ・山次康幸 ² ・吉岡美樹 ³ ・吉岡博文 ³ ・裏地美杉 ¹ ・畑中唯史 ¹ ・鳴坂真理 ¹ (¹ 岡山生物研 ² 東大院農 ³ 名大院生農)
		座長 川崎 努 (近大院農) 105-108
15:38	105	デュアル抵抗性蛋白質システムによる革新的作物保護技術の開発 ○鳴坂真理 ¹ ・井上喜博 ² ・高野義孝 ² ・白須 賢 ³ ・白石友紀 ¹ ・鳴坂義弘 ¹ (¹ 岡山生物研 ² 京大院農 ³ 理研CSRS)
15:50	106	シロイヌナズナにおける機械刺激誘導性免疫の解析 ○松村 護 ¹ ・野元美佳 ¹ ・板谷知健 ¹ ・鈴木孝征 ² ・塚越啓央 ³ ・多田安臣 ^{1,4} (¹ 名大院生命 ² 中部大応生 ³ 名城大農 ⁴ 名大遺伝子)

第2会場		第3会場
座長 佐々木 一紀 (山口大農) 201-204		座長 三宅 律幸 (愛知農総試) 301-304
201	イネばか苗病菌 <i>Fusarium fujikuroi</i> のGグループとFグループのジベレリン産生力の違いの原因遺伝子解明 ○稲垣 晋 ¹ ・長坂拓弥 ¹ ・今崎伊織 ² ・藤 晋一 ³ ・柘植尚志 ⁴ ・清水将文 ¹ ・景山幸二 ⁵ ・須賀晴久 ⁶ (¹ 岐大応生 ² 農研機構東北農研 ³ 秋田県大生資 ⁴ 名大院生農 ⁵ 岐大流域研セ ⁶ 岐大生命セ)	301 <i>Phomopsis</i> sp.によるトマトホモブシス茎枯病(新称) ○山崎淳紀・矢野和孝・佐藤敦彦・朝比奈泰史・森田泰彰(高知農技セ)
202	イネばか苗病菌 <i>Fusarium fujikuroi</i> のチオファネートメチル耐性と β 2チュープリン遺伝子の変異 ○須賀晴久 ¹ ・川畑文子 ¹ ・清水将文 ² ・景山幸二 ³ (¹ 岐大生命セ ² 岐大応生 ³ 岐大流域研セ)	302 <i>Sclerotinia sclerotiorum</i> によるエゴマ菌核病(新称) ○福岡貴寿(島根農技セ)
203	シスト発芽阻害物質 β -trubromycinを用いた <i>Phytophthora infestans</i> 形態分化機構の解析 ○谷 修治・田所千聖・西尾尚堯・東條元昭・炭谷順一・川口剛司(大阪府大院生環)	303 <i>Pythium</i> および <i>Phytophythium</i> 属菌によるセダム根腐病(新称) ○林 美希 ¹ ・須賀晴久 ² ・景山幸二 ¹ (¹ 岐大流域研セ ² 岐大生命セ)
204	ジャガイモへの病原性が低下した <i>Botrytis cinerea</i> 変異株群の他の植物種への病原性の解析 ○黒柳輝彦・小鹿 一・佐藤育男・千葉壮太郎・川北一人・竹本大吾(名大院生農)	304 <i>Pythium myriotylum</i> によるコンニャク根腐病(病原追加) ○田中淳和 ¹ ・松浦昌平 ² ・東條元昭 ¹ (¹ 大阪府大院生環 ² 広島総研農技セ)
座長 池田 健一 (神戸大院農) 205-208		座長 生咲 巖 (香川農試府中果樹研) 305-308
205	イネ科牧草共生菌 <i>Epichloë</i> エンドファイトの擬似有性生殖により作出したHybrid菌株の染色体構成の解析 ○三浦里佳・磯部仁美・増中 章 ¹ ・菅原幸哉 ¹ ・佐藤育男・千葉壮太郎・川北一人・田中愛子・竹本大吾(名大院生農 ¹ 農研機構)	305 アジサイ灰色かび病菌 <i>Botrytis cinerea</i> による促成栽培のアジサイに発生した花芽の腐敗症状 ○永島 進・塚本俊秀(島根農技セ)
206	コムギ葉枯病菌ゲノムに存在するリンゴ斑点落葉病菌AM毒素生成成遺伝子クラスターの相同領域の機能 ○森 汐理 ¹ ・宮川泰輝 ¹ ・後藤千保 ¹ ・川瀬めぐみ ¹ ・播本佳明 ¹ ・花田耕介 ² ・児玉基一朗 ³ ・山本幹博 ⁴ ・柘植尚志 ¹ (¹ 名大院生農 ² 九州工大生物情報 ³ 鳥取大農 ⁴ 岡山大院環境生命)	306 大阪府内の植物工場で発生したホウレンソウ生育障害への <i>Pythium</i> 属菌と <i>Olpidium</i> 属菌の共感染関与の可能性 ○西村幸芳 ¹ ・田中淳和 ² ・草刈真一 ¹ ・村井和夫 ³ ・渡辺玉範 ³ ・東條元昭 ² (¹ 大阪環農水研 ² 大阪府大院生環 ³ クボタサンベジファーム(株))

16:02	107 赤色光シグナルが制御するSA応答性防御応答 ○東井 周¹・野元美佳¹・坂谷知健¹・塚越啓央^{2,3}・松下智直^{2,4}・多田安臣^{1,5}(¹名大院理・²JSTさがけ・³名城大院農・⁴九大院農・⁵名大遺伝子)
16:14	108 イネにおける新規テルペン合成酵素遺伝子の病理学的役割の解析 ○桐生昌樹・濱中美帆・吉富佳代・秋光和也・五味剣二(香川大農)
座長 加藤 久晴(福井県大) 109-112	
16:26	109 植物免疫シグナル伝達に関するシロイヌナズナMKK3を介したグループC MAPキナーゼ経路の解析 ○松村美里¹・永田雅也¹・中村雅子¹・瀧澤 香²・高橋史憲²・篠崎一雄²・松岡大介³・白須 賢²・市村和也¹(¹香大院農・²理研CSRS・³神大院農)
16:38	110 シロイヌナズナ <i>mekk1</i> 変異体の表現型に関与するRNAヘリカーゼSMN2の解析 ○岩本直樹¹・高木桃子²・濱野康平¹・Alexander Graf³・David Greenshields⁴・高木宏樹⁵・田中啓介⁶・久保佑太¹・太治輝昭⁷・篠崎一雄⁴・寺内良平⁵・白須 賢⁴・市村和也¹(¹香大院農・²愛媛連大農・³Sainsbury Lab. JIC UK・⁴理研CSRS・⁵岩手生工研・⁶東京農大生物資源ゲノム解析セ・⁷東京農大バイオ)
16:50	111 シロイヌナズナユビキチンリガーゼPUB25及びPUB26はMEKK1に直接結合しMAPキナーゼ経路を正に制御する ○小林孝博¹・久保佑太¹・榎尾隼平¹・溝口 剛²・Alexander Graf³・高橋史憲⁴・多田安臣⁵・篠崎一雄⁴・白須 賢⁴・市村和也¹(¹香大院農・²ICU教養自然科学・³Sainsbury Lab., JIC, UK・⁴理研CSRS・⁵名大院生命理学)
17:02	112 植物免疫ブライミング機構におけるMAPKの役割の解析 ○中川真哉¹・山本剛大¹・津田賢一²・山口公志¹・川崎 努¹(¹近大院農・²マックスプランク研究所)

207 宿主特異的ACT毒素生産に関与する新規デカトリエン酸生成酵素およびその遺伝子の探索	307 Effects of snow depth on moss-inhabiting <i>Pythium</i> spp. in an Arctic region
○田中佐和 ¹ ・島上卓也 ¹ ・津木悠吾 ¹ ・増中 章 ¹ ・宮本尊子 ¹ ・大谷耕平 ¹ ・望月 進 ¹ ・柘植尚志 ² ・山本幹博 ³ ・市村和也 ¹ ・五味剣二 ¹ ・秋光和也 ¹ (¹ 香川大農・ ² 名大院生農・ ³ 岡大院自然科学)	○Yamaguchi, T. ¹ , Tojo, M. ¹ and Cooper, E.J. ² (¹ Osaka Pref. Univ.・ ² UiT: The Arctic Univ. Norway)
208 <i>Alternaria alternata</i> 18257株が保有するトマチナーゼ遺伝子 <i>AaTom1</i> の病理学的意義	308 イチジク疫病菌 <i>Phytophthora palmivora</i> による幹の腐敗(病徴追加)
○下条正隆 ¹ ・都宮理奈子 ¹ ・赤木靖典 ² ・石原 亨 ¹ ・有江 力 ³ ・児玉基一朗 ² (¹ 鳥取大農・ ² 鳥取連大・ ³ 農工大院農)	○武山桂子・三宅律幸・鈴木良地・恒川靖弘(愛知農総試)
座長 竹本 大吾(名大院生環) 209-212	
209 トマトアルターナリア茎枯病菌におけるAAL毒素生成遺伝子クラスターの発現調節に関わる転写因子ALT13は <i>ALT1</i> のスプライシングに関与する	309 シソサビダニ(仮称)とシソモザイク病の青ジソにおける発消生長
○赤木靖典 ¹ ・柘植尚志 ² ・児玉基一朗 ¹ (¹ 鳥取連大・ ² 名大院生農)	○堀川英則 ¹ ・伊藤涼太郎 ^{1,2} ・市川耕治 ¹ ・三宅律幸 ¹ (¹ 愛知農総試・ ² 現 ウォーターセル(株))
210 MoAgo3アルゴノートはMoAgo1とのsiRNAの競合によりRNAサイレンシングを負に制御する	310 キク矮化ウイルスの接木接種における穂木の生育ステージがキクへの感染に及ぼす影響
Nguyen Quyet ¹ ・松原 愛 ¹ ・池田健一 ¹ ・鈴木信弘 ² ・○中屋敷均 ¹ (¹ 神大院農・ ² 岡大植物研)	○浅野峻介 ¹ ・虎太有里 ¹ ・仲 照史 ¹ ・芳田侃大 ¹ ・松下陽介 ² (¹ 奈良農研セ・ ² 農研機構野花研)
211 Building blocks法によるいもち病菌の脂質代謝遺伝子群の機能解析	311 セラミック多層電極を用いたプラズマによるアブラナ科黒腐病菌の殺菌因子の検討
○池田健一 ¹ ・翠川陽大 ² ・前田健太郎 ¹ ・中屋敷均 ¹ (¹ 神大院農・ ² 神大農)	○西岡輝美 ¹ ・西村幸芳 ¹ ・三沢達也 ² (¹ 大阪環農水研・ ² 佐賀大院工)
212 <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>cepae</i> の病原性染色体候補の解析	312 愛知県におけるシソモザイク病の発生実態の解明とそれに基づく耕種的手法を中心とした対策の検討
○坂根光星・安藤彩香・佐々木一紀・伊藤真一(山口大農)	○恒川健太 ¹ ・武山桂子 ¹ ・田中はるか ¹ ・堀川英則 ¹ ・伊藤涼太郎 ^{1,2} ・市川耕治 ¹ ・坂紀 邦 ¹ (¹ 愛知農総試・ ² 現 ウォーターセル(株))

座長 高原 浩之（石川県大） 113-116	
17:14	113 Involvement of tryptophan-derived secondary metabolism in post-invasive resistance of <i>Arabidopsis thaliana</i> against fungal pathogens ○Kosaka, A.¹, Bednarek, P.², Kaido, M.¹, Mise, K.¹ and Takano, Y.¹ (¹ Grad. Sch. Agric., Kyoto Univ., ² Polish Academy of Sciences)
17:26	114 シロイヌナズナ <i>nsll</i> 変異体にウリ類炭疽病菌が誘導する細胞死の研究 ○坂井遼太・畑 政輝・海道真典・三瀬和之・高野義孝 (京大院農)
17:38	115 シロイヌナズナと多様な地域から分離された <i>Colletotrichum tofieldiae</i> の相互作用の解析 ○晝間 敬^{1,2}・西條雄介¹ (¹奈良先端大・²さががけ)
17:50	116 ACR毒素レセプター遺伝子転写物修飾タンパク質群の非感受性品種における宿主特異的複合体化 ○島上卓也・大谷耕平・小川実可子・安田晋輔・西村 聡・多々野智・望月 進・市村和也・五味剣二・秋光和也 (香川大農)

座長 津下 誠治（京都府大院生環） 213-216		座長 川口 章（農研機構 西日本農研） 313-315	
213	<i>Pseudomonas syringae</i> の菌体密度感知機構の解析 (2) ○一瀬勇規¹・松井英謙¹・石賀康博²・山本幹博¹・能年義輝¹・豊田和弘¹ (¹岡大院環生・²筑波大院生環)	313	2017年の香川県におけるキウイフルーツかいよう病 biovar3 (Psa3) の発生状況と‘さぬきキウイっこ®’における Psa3 の発生について ○生咲巖¹・藤村俊夫²・遠藤温子²・川北兼奨³・豊嶋貴司⁴・小野壮一郎⁵・松本勇一⁶・中村裕彦⁷・片岡郁雄⁸・秋光和也⁹ (¹香川農試府中果樹研・²香川農試防除所・³東讃普セ・⁴小豆普セ・⁵中讃普セ・⁶西讃普セ・⁷香川農経課・⁸香川大農)
214	イネかさ枯病菌フラジェリン欠損株の病原性の解析 ○岡本卓大・深川真全・加藤久晴 (福井県大)	314	広島県におけるカンキツかいよう病菌の細菌学的特徴 ○富村健太¹・森田剛成²・金好純子²・塩谷 浩¹ (¹農研機構 果樹茶部門・²広島総研農技セ)
215	<i>Rehmannia mosaic virus</i> 日本株の移行タンパク質の A129T, H130K および M133E のアミノ酸置換がトマト植物への全身壊疽誘導に関与する ○浜田拓弥・木場章範・曳地康史 (高知大農)	315	タケ粉末とクズ茎葉で作製したミミズコンポストの水抽出液による植物寄生性線虫に対する防除効果 ○尤 曉東^{1,2}・Koon-hui Wang²・東條元昭¹ (¹大阪府大院生環・²Univ. Hawai'i Manoa)
216	<i>Red clover necrotic mosaic virus</i> (RCNMV) 移行タンパク質における推定 β シートの欠失変異解析 ○中村光希・三瀬和之・高野義孝・海道真典 (京大院農)	316	<i>Botrytis cinerea</i> によるニラ白斑葉枯病に対する薬剤の防除効果 ○矢野和孝・森田泰彰 (高知農技セ)

第2日目

第2日目 9月20日(水)		第1会場
		座長 能年 義輝 (岡大院環生) 117-120
9:30	117	ジャスモン酸によって誘導されるイネ白葉枯病抵抗機構に重要な転写因子であるJMTF1の機能解析 ○宇治雄也 ¹ ・藤井ゆみ ² ・桐生昌樹 ² ・山田祥子 ² ・秋光和也 ^{1,2} ・五味剣二 ^{1,2} (¹ 愛媛連大農・ ² 香川大農)
9:42	118	イネジャスモン酸シグナル伝達機構におけるOsNINJA1結合タンパク質OsFHA1の機能解析 ○岡本祐季 ¹ ・柏原啓太 ¹ ・宇治雄也 ² ・田中 涼 ¹ ・濱中美帆 ¹ ・秋光和也 ^{1,2} ・五味剣二 ^{1,2} (¹ 香川大農・ ² 愛媛連大農)
9:54	119	イネのジャスモン酸シグナル伝達機構におけるOsNINJA1結合タンパク質であるOsSRO1aの解析 ○柏原啓太 ¹ ・岡本祐季 ¹ ・宇治雄也 ² ・田中 涼 ¹ ・濱中美帆 ¹ ・秋光和也 ^{1,2} ・五味剣二 ^{1,2} (¹ 香川大農・ ² 愛媛連大農)
10:06	120	ジャスモン酸応答性揮発性物質であるサリチル酸メチルのイネ白葉枯病抵抗性における役割 ○濱中美帆 ¹ ・田中啓一郎 ¹ ・谷口しづく ² ・秋光和也 ^{1,2} ・五味剣二 ^{1,2} (¹ 香川大農・ ² 愛媛連大農)
		座長 市村 和也 (香川大農) 121-124
10:18	121	イネのキチン応答におけるOsPBI1-OsWRKY45を介した転写制御機構 ○繁田修佑 ¹ ・安藤駿丞 ¹ ・井上健人 ¹ ・原田健一 ² ・一丸航太 ¹ ・吉村智美 ¹ ・山口公志 ¹ ・児嶋長次郎 ^{2,3} ・川崎 努 ¹ (¹ 近大院農・ ² 大阪大蛋白研・ ³ 横浜国大院工)
10:30	122	イネ病原菌認識受容体Xa1によるTALエフェクターの認識機構の解明 ○安藤駿丞 ¹ ・大内俊和 ¹ ・泉谷眞帆 ¹ ・山口公志 ¹ ・吉村智美 ¹ ・川崎 努 ¹ (近大院農)

第2会場		第3会場
座長 高野 義孝 (京大院農) 217-221		座長 内橋 嘉一 (兵庫農技セ) 317-320
217	<i>mlo</i> 変異によるオオムギうどんこ病菌抵抗性の解析 ○長野真依 ¹ ・和原未季 ¹ ・井上智絵 ¹ ・久野 裕 ² ・小林括平 ¹ ・山岡直人 ¹ ・中神弘史 ³ ・八丈野孝 ¹ (¹ 愛媛大農・ ² 岡大植物研・ ³ 理研CSRS)	317 レタス疫病に対する各種薬剤の土壌灌注およびセルトレイ灌注処理の効果 ○楠 幹生 (香川農試病害虫防除所)
218	オオムギうどんこ病菌エフェクターAPEC1の機能解析 ○井上智絵 ¹ ・武井 博 ¹ ・香口智宏 ¹ ・小林括平 ¹ ・山岡直人 ¹ ・中神弘史 ² ・八丈野孝 ¹ (¹ 愛媛大農・ ² 理研CSRS)	318 イネ褐紋病菌 <i>Nigrospora oryzae</i> は本来アゾキシストロピンに感受性、フラマトビルには非感受性である ○石井英夫・黒崎 敦・村上二郎 (吉備国際大)
219	アブラナ科植物炭疽病菌エフェクターとそのパラログをコードする遺伝子領域の構造解析 ○林 蒼唯 ¹ ・Richard O' Connell ² ・高原浩之 ¹ (¹ 石川県大院・ ² INRA-AgroParisTech)	319 和歌山県内で採集したカンキツ緑かび病菌、青かび病菌およびひげかび病菌のチオファネートメチル、イミノクタジン酢酸塩感受性 ○衛藤夏葉 ¹ ・井沼 崇 ² ・武田知明 ¹ ・中 一晃 ¹ (¹ 和歌山県果試・ ² 和歌山県農業環境・鳥獣害対策室)
220	罹病葉において周期性の遺伝子発現パターンを示す <i>Blumeria graminis</i> f.sp. <i>tritici</i> エフェクター様遺伝子群 ○吉田健太郎 ¹ ・溝尾直子 ¹ ・若森和昌 ² ・峰野博史 ² ・宅見薫雄 ³ (¹ 神戸大先端融合・ ² 静岡大院総合科学・ ³ 神戸大院農)	320 ムギ類赤かび病菌のベンズイミダゾール系薬剤耐性変異のLAMP-FLP法による迅速検出 ○甲村瞭次 ¹ ・川上 拓 ² ・中嶋香織 ² ・須賀晴久 ³ ・中島千晴 ¹ (¹ 三重大生資・ ² 三重農研・ ³ 岐大生命セ)
座長 上野 誠 (島根大生資) 222-224		座長 野見山 孝司 (農研機構 西日本農研) 321-324
221	コムギいもち病菌に対する新規抵抗性遺伝子の探索 ○Wang, S.Z. ¹ ・足助聡一郎 ¹ ・Vy, T.T.P. ¹ ・井上喜博 ^{1,2} ・中馬いづみ ¹ ・土佐幸雄 ¹ (¹ 神戸大院農・ ² 現 京大院農)	321 LAMP法による輸入検疫有害菌 <i>Phytophthora ramorum</i> , <i>P. kernoviae</i> および <i>P. lateralis</i> の特異的検出 ○日恵野綾香 ¹ ・大坪佳代子 ¹ ・須賀晴久 ² ・景山幸二 ¹ (¹ 岐大流域研セ・ ² 岐大生命セ)
222	ブロッコリー黒腐病に対する非病原性 <i>Xanthomonas</i> 属細菌とバクテリオファージの組み合わせ効果 ○永井裕史 ^{1,2} ・三宅律幸 ¹ ・瀧川雄一 ² (¹ 愛知農総試・ ² 静岡大創造院)	322 <i>Pythium irregulare</i> のマイクロサテライトマーカーの作出 ○守田航馬 ¹ ・景山幸二 ¹ ・須賀晴久 ² (¹ 岐大流域研セ・ ² 岐大生命セ)

	10:42	123 ベンサミアナのNbXPO1AとNbXPO2はジャガイモ疫病菌感染時の病害抵抗性誘導を対照的に制御する ○水野邑里・佐藤育男・千葉壮太郎・川北一人・竹本大吾(名大院生農)	223 仮焼酸化マグネシウムによるトマト萎凋病の発病抑制 ○藤川 勇¹・佐々木一紀¹・太田万紀子¹・境 昭二²・伊藤真一¹(¹山口大農・²山口大TLO)	323 RIPA法を用いたトマトかいよう病菌の土壌からの検出と土壌還元消毒の処理温度と期間の検討 ○清水佐知子¹・梶原真二¹・竹原利明²(¹広島総研農技セ・²農研機構西日本農研)
	10:54	124 免疫応答におけるROSセンサータンパク質の関与 ○福田太一¹・安達広明²・吉岡美樹¹・吉岡博文¹(¹名大院生農・²センズベリーラボラトリー)	224 レタスピッグベイン病激発圃場における露地型土壌還元消毒再処理時の効果 ○米本謙悟¹・佐藤泰三¹・田村 收¹・山下 浩¹・竹原利明²(¹徳島農総技支セ・²農研機構西日本農研)	324 粘着トラップを用いたリアルタイムPCR法によるナン萎縮病菌胞子の検出・定量技術の開発 ○今井健司(徳島農総技支セ)
		座長 木場 章範 (高知大農) 125-128	座長 竹原 利明 (農研機構 西日本農研) 225-227	座長 清水 将文 (岐大応生) 325-328
	11:06	125 非病原性 <i>Rhizobium vitis</i> ARK-1株がブドウの抵抗性誘導関連遺伝子発現に与える影響について ○川口 章¹・能年義輝²(¹農研機構西日本農研・²岡大院環生)	225 奈良県におけるキクベと病の発生状況と温湯消毒および殺菌剤による防除効果 ○芳田侃大¹・浅野峻介¹・角川由加²(¹奈良農研セ・²奈良北部農林)	325 カンキツ果実への鮮度保存被膜剤塗布によるカンキツ緑かび病および青かび病の発病抑制効果 村本和之¹・○中村友香²・兼常康彦²・西岡真理²・宮田明義²(¹山口県岩国農林事務所・²山口県農林総合技術セ柑きつ振興セ)
	11:18	126 非病原性 <i>Rhizobium vitis</i> VAR03-1株の培養上清がブドウ根頭がんしゅ病菌に及ぼす影響 ○齊藤 晶¹・渡邊 恵¹・松井英譲¹・山本幹博¹・一瀬勇規¹・豊田和弘¹・川口 章²・能年義輝¹(¹岡大農・²農研機構西日本農研)	226 アセチル化グリセリド(ベミデタッチ®乳剤)の散布によるトマト施設でのタバコナジラミと着色異常果の抑制効果 ○松浦昌平¹・加嶋崇之²・北村登史雄³・安部 洋⁴(¹広島総研農技セ・²石原産業・³農研機構九州沖縄農研・⁴理研BRC)	326 各種微生物農薬によるキウイフルーツかいよう病の防除効果 ○加藤光弘¹・影山智津子¹・須崎浩一²(¹静岡農林研果研セ・²農研機構果樹茶)
	11:30	127 エンドウ褐紋病菌一タルウマゴヤシモデル相互作用の電子顕微鏡による観察 鈴木智子^{1,2}・前田 綾¹・廣瀬昌也¹・一瀬勇規¹・白石友紀^{1,3}・○豊田和弘¹(¹岡大院環生・²日本女子大理・³現 岡山生物研)	227 反射資材の併用がイチゴうどんこ病に対する紫外光(UV-B)の防除効果を増強する ○内橋嘉一¹・田中雅也¹・三浦宏晴¹・神頭武嗣¹・佐藤 衛²(¹兵庫農技総セ・²農研機構野菜花き)	327 沖縄微生物ライブラリーを利用したイネいもち病の抑制について(4) ○田村朋子¹・新里尚也²・木原淳一¹・上野 誠^{1,2}(¹島根大生資・²琉球大熟生研)
	11:42	128 ササゲにおける細胞外オキシダティブースト反応の分子機構 ○川端真矢¹・佐藤穂高¹・高須瑞穂¹・松尾実佳²・松井英譲^{1,2}・能年義輝^{1,2}・山本幹博^{1,2}・一瀬勇規^{1,2}・白石友紀^{1,2,3}・豊田和弘^{1,2}(¹岡大農・²岡大院環生・³現 岡山生物研)		328 <i>Streptomyces</i> 属菌STS1株によるキュウリ病害の抑制について ○Ganphung Rattrikorn・田村朋子・木原淳一・上野 誠(島根大生資)